

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600594		
法人名	医療法人社団榮仁会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム さるびあ【東棟】		
所在地	大分県臼杵市野津町大字宮原1181番地		
自己評価作成日	平成26年12月16日	評価結果市町村受理日	平成27年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成26年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・認知症悪化予防への取り組み ・身体機能の継続した維持支援 ・地域交流(買い物、散髪、地域の敬老会、お祭り、ドライブ、外食、子どもたちとの交流等) ・家族交流 ・外泊、外出の自由 ・役割活動にて生き甲斐作り ・ホーム内外での活動 ・充実した医療支援
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・法人の充実した医療支援のもと職員の資質向上に向けた内部研修をしている。また、認知症への理解と職員のスキルアップ研修も充実しており、利用者一人ひとりの尊厳が守られている。 ・運営推進会議や家族交流会で地域や家族と連携も密に取れている。年2回地域の方より花苗の提供があり、入居者と職員が共同作業で植え付けや管理をして、施設の周辺で四季折々の花が見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員手作りの理念を掲げ、利用者一人一人の処遇に力をいれ「安心と生き甲斐のある暮らし」を支えられるよう努力している。	職員で作った理念「尊厳・安心・自立・健康・継続」を廊下等に掲示している。職員は常に理念が書かれた物を携帯しケアの指針を意識しながら実践に繋げる努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	児童クラブや、子ども料理教室の子どもたちが来てくれたり、地域の敬老会参加やお祭り、市の公民館行事や商工会青年部、地区消防団等の交流やご協力を頂いている。	児童クラブによる料理教室や地域の敬老会、公民館等の行事に参加して、日常的に交流している。町内会の回覧板のお知らせ等を継続して受取る方もいる。また、職員もキャラバンメイトで地域に出かけるなど啓発活動にも力を入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の講師として、また、人材育成の為に研修生の受け入れやボランティア等の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回運営推進会議を行い、さるびあでの活動状況を報告、意見やアドバイスを頂いている。又、推進委員さんのご協力を頂き地域との交流の機会が増えている。	2か月に1回開催しており、外部の参加者が多い。地域から参加の栄養士資格保持者が、持参してくれる手作りおやつレシピを使って、会議参加者と利用者と一緒におやつ作りをする時間を毎回の会議で作っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加頂き、さるびあでの活動状況を報告、意見やアドバイス等を頂き、相談ごとについては連絡することですぐにに応じていただいている。	運営推進会議で市職員が制度上の話をしたり連携が取れている。また、情報交換やアドバイスを受けたら、相談もできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言の理念を掲げホーム内全館に鍵を掛けることなく身体拘束をしないケアの実践を行っている。	玄関ホールに身体拘束排除の理念を掲示しており、内部研修を行い、理念に沿ってケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内での研修を行ったり、朝夕のミーティング時に入居者の状況変化の報告を行ったり、入浴時の観察等職員が見守る体制作りを作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市での研修会に参加したり、ご家族の要請にて入居者が機能低下なく継続して文字が書けるようケア支援を行ったりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、入居契約を行いホームの状況を十分説明。御家族の意見等を聞き継続して反映されるよう、又、面会時も要望や意見を聞くよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二ヶ月に一回さるびあの活動報告を文書で送ったり、さるびあ便り等にその状況を乗せ発送している。又、面会時に必ず近況報告や意見を聞く機会を設けている。	利用者との雑談の中で要望を聞いたり、家族と電話する機会に意見を聞いている。2か月ごとに活動報告を送っている。年2回、推進会議に合わせ家族交流会を開き、出席者も多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回のカンファレンスにDr(経営者)に参加頂き、職員の意見を聞いて頂くことで、業務の内容等についても理解頂いている。	利用者の思いを見つめ直すための「笑顔マップ」を職員の提案で作成し、全職員で取り組んでいる。また、月1回のケアカンファレンスに、医師である経営者も参加し、その折り、職員の意向を聞いている。資格取得を目指す職員に対し、研修への参加や出勤日の調整など支援をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回懇親会をしていただき、個別に意見等を聞く機会を設けていただいている、職場での資格取得には積極的な支援を行っていただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個人の状況に応じた外部への研修参加やホーム内での毎月の研修会を行うと共に実践を通し朝夕のミーティングにてアドバイスする機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模事業所との交流を行い、県外や県内施設への見学や共同研修を行ったり、大分県認知症グループホーム協会に入会し研修の機会を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホームの見学を行って頂き、ホームでの生活状況の説明や、御家族、ご本人の意見を聞き、入居時不安のないよう集中したケアを提供するよう配慮している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面談し、ご本人の様子や状況を尋ねケアプランに反映している。又、面会時状況変化を報告する等の配慮を行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要状況に応じ、居宅や他の居宅への相談や協力を頂いている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個人の状況に応じ、日常生活の中で洗濯物干し、料理作り、下膳、掃除等の出来ることの役割に参加頂いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や定期的な外泊や外出等をして頂いたり、状況変化時に連絡することですぐに応じて頂いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の敬老会に参加したり、買い物、散髪へ出かけたり、散髪屋さんからは終了時に連絡を頂いたり馴染みの関係への支援を行っている。	地域の敬老会や馴染みの店等に出かけるなどの支援が行われている。孫や家族と手紙での交流や訪問もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	理解状況に応じて共にパズルを行ったり、ソファでの座位場所への配慮を行ったり、又、皆で参加できるレク等への工夫を行なっている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も病院へ面会に行ったり、ホームの行事へ御家族が参加してくれたり継続した交流が来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物、散髪、ドライブ、歯科受診等ご本人の希望に応じて対応している。又、状況に応じご家族の協力も頂いている。	認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式のシートに記録している。一人ひとりの思いや意向を把握し状況に応じ、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時「はじめの一步」シートを作り職員の共有資料としている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	テーブル拭き、食器拭き、お絞りたたみ、洗濯物干し、洗濯物たたみ等へ積極的に参加頂いている。又、排尿の訴えない方でも安易にオムツに頼ることなくトイレでの排泄を支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝夕のミーティング時に変化状況や毎回Drを交え職員全員参加のカンファレンスを行っている。面会時等にもご家族の意見を聞くよう配慮している。又、地域ケア会議に参加し他職種からの意見を聞く機会を得ている。	介護計画を3か月ごとに見直し、全職員で笑顔マップを作成するなど、他職種の意見も取り入れながら実践に繋げている。週3回看護師がチェックしている。定期受診ノートにより薬の変更も職員間で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケアプランに沿ったケース記録や食事、排泄、水分摂取、体重の変動等の記録を行い、周期的その状況をまとめカンファレンスを行い状況変化に応じたケアプランの変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時家族のみに任せることなく共に付き添って状況の説明を行うよう対応している。又、入院後も職員が余暇を利用して面会に行く等の配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員の方のご協力もあり、地域の敬老にご招待を受けたり、子ども料理教室の子ども達との交流や市の公民館行事、商工会の催しごとへの参加等の機会が増している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期受診や専門医への受診時の状況提供等や必要時の家族と共に付き添う等の支援を積極的に行っている。	24時間受診対応が出来る体制がある。内科、外科、歯科との連携がとれている。家族にも説明している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況変化に応じて適時Nsに報告することで速やかに医療支援が受けられる連携体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、必ず職員が付き添い情報提供を行いDrよりの説明を聞くようにしている。又、退院時も付き添い状況把握に努めホームでの生活が安定して継続できるよう配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時ホームの意向を伝えているが、必要時御家族とDrを交え話し合い、御家族の意見を反映できるよう支援している。Dr協力にてターミナルケアの受け入れ態勢は出来ている。	事前にカンファレンスして事業所のできることを説明している。本人、家族の意向を踏まえ支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応等に添った研修を行い資料等の配布を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	市の消防署、地域消防団のご協力を頂き年二回防災訓練を実施している。平成25年5月夜間の火災を想定した防災訓練を実施した。	朝のミーティング時に消火器の位置確認等、常に意識している。年2回、消防署による訓練を実施。地域の消防団の協力を得て夜間訓練もある。備蓄もユニットごとにある。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助の必要な方にさりげなく声掛けするように配慮したり、ご本人の意思を尊重するような支援であるよう機会あるごとに職員に指導している。	朝・夕のミーティング時など日頃からの気配りを心掛け、利用者へさりげない声かけ等を行っている。また、職員間でも注意し合っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物や散髪等の希望に応じた支援を行っている。又、買い物にいけない方には、本人の要求に添ってお菓子や衣服を職員が買ってきている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の身体状況や体調に配慮しながらご本人の要求に沿えるよう配慮している。ご本人にとって一日が充実していたと思えるような支援が出来るよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や能力に添った衣服等の整え支援を行ったり、化粧品等は要求に添って職員が購入支援を行っている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事について、好き嫌いへの把握を行い、工夫することで摂取頂いたり、食事作りや後片付けを一緒に行えるよう環境の整えを配慮している。	3食とも手作りの食事である。野菜等の差し入れもあり、利用者と共に割烹着を身に着け調理する姿が見られる。アンケートを取りながら各々の好みも取り入れている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の摂取カロリーを把握し、それぞれに応じた対応を行い摂取量の記録を行っている。水分管理の必要な方は摂水量を計測し一日の水分量の管理・把握を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き支援や義歯を週2回消毒したりと口腔内の衛生管理を行っている。又、必要状況に応じ歯科受診等の支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄記録を付け、それぞれに応じた排泄パターンを把握している。基本的には、オムツをしていても排泄はトイレでとの考えから、日中はトイレでの排泄支援を行っている。	トイレでの排泄を基本としている。トイレの場所をわかりやすくするため、日の丸の旗を目印にしている。オムツに頼らずトイレに行く事でリハビリに繋げている。排泄チェック表に沿って声掛けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し、個人の排便状況を把握している。朝夕のミーティング時に状況報告を行い管理している。適度な運動や食物繊維の多い食材の工夫等を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があれば夜間入浴の対応や夏場のシャワー浴等の支援を行なっている。	入浴日は決まっているが、希望に合わせて入浴できる。入浴を嫌がる人は足浴等を行っている。2～3人で入る方もいて入浴を楽しめるような支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	廊下や広縁にソファを置き、ゆっくり休息できるようにしている。それぞれの就寝時間は自由で談話室にてTVや本を見たりされ過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の受診ノートや処方箋の記録ノートを作成し、薬の変更時にはスタッフ皆がわかるようにしている。又、追加薬等服用時には服用後の状況変化の観察等皆で行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の状況に応じ日常生活における役割の支援を行っている。又、食事に出かけたり、季節に応じドライブへ出かけてり、日常の中で出来るだけ有意義に楽しく過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の敬老会に参加したり、ドライブに出かけてり、地域のお祭りへ参加したり、食事へ出かけたり等出掛ける機会を多く設けている。又、天気の良い日は外でグランドゴルフや日光浴を行いお茶を飲んだり楽しんでいただいている。	天気や時期によって、グランドゴルフ・季節の花見・日光浴などを行っている。ドライブに出かけたり外食に出掛ける事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の状況に応じ金銭管理の出来る方はお金を持ち買い物に出かけたり、又、ほしい物の要求があればスタッフが対応し、おつりと領収書を渡し確認を頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ都度支援をしている。又、家族へ暑中見舞いや年賀状を出したり、ホームだよりやホームの取り組み等を定期的に知らせている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや居室を季節ごとに飾りつけたり、外にゴーヤを植え成長を楽しまれたり、居室に家族の写真を飾ったりすることで安心できる生活空間づくりをを配慮している。	室温・換気に気を配りながら各室前に湿ったバスタオルがかけるなど湿度にも配慮している。縁側にはソファが置かれ、ゆったりできる。居室の窓側に広縁があり、外気浴が出来る空間がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や広縁にソファを置き、面会時自由に使用されたり、利用者同士でお茶を飲みながら会話できるよう余裕を持った生活空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使っていた布団やサイドボックスを持ってきたり、家族の写真を貼ったり、又、季節的衣の交換を家族が行ってくれたりして頂く事で本人の思いや状況の理解を頂いている。	本の好きな人は本棚に雑誌が並べられ、その人らしく部屋が整えられている。孫の写真や絵手紙などが飾られており、家庭に居る様な雰囲気作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ローカを広く危険なく歩きやすいよう配慮している。見当識等ある方の為、トイレに日の丸を掲げわかりやすいよう工夫支援を行っている。又、機能低下することなく目的地へいける様その日の状況に応じ歩行器等の準備を行っている。		